



立命館慶祥の 教育のPOWERは ここにある

●「陸上競技部」

北海道、全国における注目校として躍進する立命館慶祥中学校・高校の教育プログラムをシリーズでご紹介。今回は、中高一貫という内部進学の利点を活かしながら、陸上経験ゼロの部員たちをインターハイ出場にまで導いた陸上競技部顧問の日裏徹也先生に、生徒たちと歩んだ楽しくも険しい道のりと、そこから学びとった成果について語っていただきました。

中高一貫教育で花ひらく個性



●陸上競技部 高体連札幌支部大会

「インターハイって何ですか?」

陸上競技部顧問の日裏徹也先生が「インターハイをめざそう!」と語りかけたとき、生徒は「インターハイって何ですか?」と聞き返した。何も知らない

い、何もできない状態からのスタートだった。しかし、それは「才能がない」ことと同じではなかった。

一般的に、中学3年生は中体連が終わると受験準備のため部活動を引退する。高校入学までの約半年間は、ト

レーニングが中断した状態となる。しかし、立命館慶祥の中学生は内部推薦で高校へ進学できるため、中体連が終わってからの半年間、シーズン・オフの鍛錬期に高校生といっしょに練習を継続する。「何も知らない」生徒たち

は、受験の季節に、受験とは異なる目標にむかって自らを鍛え続けていた。現在の高校3年生、女子マイルリレーの選手4人が高校1年生のころの100mのタイムは、14秒台3人、13秒台1人。とてもサラブレッドとはいえないごく普通の選手であった。高校1年の夏期合宿で、日裏は語りかけた。「みんなは2年後の沖縄インターハイに出場できる。インターハイを目指そう!北海道記録を作つて。」

確かな目標を持った選手たちは、顧問の言葉を信じ、たくさんの努力を重ねてきた。そして今夏、インターハイを知らなかつた選手が、インターハイのトラックを駆けぬけた。

このチームにはエリートはない。「雑草魂」をモットーに戦ってきた。このリレーメンバーでの女子4×400mR競技はインターハイが最後となった。インターハイ出場は果たしたが、「北海道高校新記録」の夢は、

彼女たちの走りを見ていた後輩に引き継がれることになった。

すべての人に応援される 選手を目指す

当たり前のことであるが、立命館慶祥の部活動は、教育の一貫であり、人格を高め、人間形成の糧として運営されている。それは、「文武両道」、「強いチームではなく、素晴らしいチーム

を目指す。」といった陸上競技部の部則にもあらわれている。決して学業もおろそかにしない、させない。その成

果が、陸上競技部から京都大学をはじめ北海道大学などの難関大学への合格となって結実している。「すべての人に応援される選手」が、将来「世界に通用する18歳」として次の誰かを応援し、支えていく。次の社会を支えるためのバトンは、このようにしてリレーしていく。

学生VOICE

高校3年：大沼 文乃さん
(早稲田大学合格)



目標にむかって全力で練習でき、楽しくて幸せでした。

一年生のころは全国なんて夢にも思つていませんでした。そんな私たちがここまで来ることができたのはたくさんの方々の支えがあってこそだと思います。インターハイを目指そうと話してください、私たちを毎日指導してくださった顧問の先生には感謝でいっぱいです。

最初で最後のインターハイは、心から楽しんで走ることができました。いつもは悔し涙ばかりでしたが、今回は笑顔で終わることができました。今まで支えてくださったすべての方々に感謝の気持ちを走りで表現できたと思っています。

R世界に通用する18歳
立命館慶祥中学校・高等学校
〒069-0832 北海道江別市西野幌640-1 ホームページをご覧ください。<http://www.spc.ritsumei.ac.jp/>



出願期間 2010年12月6日(月)～
2011年1月6日(木)
試験日 2011年1月9日(日)

中学校

高校

1月 出願期間 2010年12月6日(月)～2011年1月12日(水)
入試 試験日 2011年1月15日(土)
2月 出願期間 2011年1月17日(月)～2011年2月8日(火)
入試 試験日 2011年2月15日(火)

入試日程